

明日から前期期末テスト！

夏休み中からしっかり準備していたであろう前期期末テストが、いよいよ明日から始まります。1年生にとっては、初めてで勝手の分からなかった前期中間テストとは違い、中学校のテストがどのようなものか十分に分かった上でのテストとなります。2・3年生を含め、前期の学習の締めくくりとして、これまで準備して身に付けた力を存分に発揮してもらいたいと思います。

実は準備が十分でないという生徒もいるかもしれませんが、過ぎたことを悔やんでも仕方ありません。明日までの残された時間で何を頑張れるか、ポジティブ思考で最後のひと頑張りをすることが、今回のテストの結果に、そしてこれからの自分の生き方につながるはずです。そういった意味で、全員のラストスパートに期待です。

問題を解くときには、ちょっとしたコツがある！

テストを受けるときのコツやポイント、注意する点を知っておくだけで、問題を解きやすくなったりミスを防いだりすることができます。皆さんのために、少しだけ紹介します。

その① まずは、問題全体に目を通す → できる問題から解いていく！

「始め！」の合図とともに、急いで最初の問題から解き始めていませんか？その教科が得意であれば別ですが、苦手な教科では「解ける問題から解く」が鉄則です。順番に解き進めて、途中の難しい問題に時間をとられて最後まで解けなかった、という人が必ずいるのです。しかも、やり残した問題が時間さえあれば解ける問題だったら、悔やんでも悔やみきれませんね。できるはずの問題をやり残してはいけません。

まずは問題全体をさっとながめ、解く順番を決めてから、問題を解き進めましょう。

その② 国語・英語の長文読解では、長文を読むのは後回し。問題文を先に読む！

国語や英語の長文問題は、「次の文を読み、あとの問いに答えなさい」という形で出題されます。このとき、先に長文を読むのは、オススメしません。なぜならば、問題文を読んだ後に、もう一度長文をじっくり読まなければならないからです。問題文を先に読むと、「このことが問われるんだな」ということを踏まえて長文を読むことができます。そうすると、読み進めるのと同時に問題の答えを考えることができるのです。

その③ 問題文を読むときのひと手間。問われているポイントに線を引く！

問題の中には、「【数学】～あてはまる解はいくつありますか」とか「【英語】何を指すか、日本語で答えなさい」といった出題がされる場合があります。あわてて解くと、求めた解をそのまますべて書いてしまったり、英単語のまま答えてしまったりすることがあるのです。ああ、もったいない。

問題文を読むときに、「～あてはまる解はいくつありますか」「何を指すか、日本語で答えなさい」とポイントとなる部分に線を引くと、間違いを減らせるだけでなく見直しの時にも間違いに気づきやすくなります。

その④ なるべく空欄を残さない！選択問題はもちろん、記述問題も「書く」ことが大事

テストは少しでも高い得点を目指して取り組むものです。確かな理解や記憶で答えを導き出せなくても、その場で考えて答えをひねり出したり、最後にやむを得ず当てずっぽうで書いたりした答えが「正解」だったら、それはそれでテストの得点となりますね。しかし、解答欄が空欄のままではその可能性はありません。

後でしっかり理解し直すとして、テストの時は得点につながる可能性があることには最大限の努力をすべきです。4択の選択問題ならば、当てずっぽうでも正解の確率は25%。記述問題や計算問題でも、途中までの部分点がもらえることもあります。最後の1分まで必死に考え、空欄を埋めようとする努力が大事です。

余談ですが、テスト用紙の裏に問題があるかどうか、必ず確かめましょう。自分は、中1だったときの定期テストで裏を白紙で提出したことがあります。なんと、高2の娘が同じことを6月の中間テストでやってしまいました。娘とは何かと気が合うのですが、こんなところまで似てしまうとは…。恐ろしや、恐ろしや。

大形中学校 校長室だより
夢・希望・未来

令和3年9月1日

第11号